

令和4年度 西都市立妻北小学校 自己評価・学校評価まとめ

学校の教育目標		「生きる力」を育み、心豊かでたくましく、主体的実践のできる児童の育成		学校経営方針	・児童一人一人が「試行錯誤」できる教育活動の充実	・チーム妻北小としての協働実践の推進	・家庭・地域との相互信頼に基づいた教育づくりの充実
重点目標	目標達成のための手段 (評価指標)	具体的方策・手立て	結果・考察	今後の改善策	学校関係者評価コメント (意見・感想・改善策等)		
(1) 確かな学力の向上	① 児童の基本的な学習習慣及び学習規律の確立と個に応じた習熟・補充の指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習習慣及び学習規律の定着を図る。 個に応じた習熟・補修の指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査(6年)は全国平均を上回っていたが、保護者が「学校は学力をつけるためにきめ細かな指導をしている」と回答した割合は57%(R3は69%)と下っており、「わからない」と回答した割合が34%と多くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査結果のみにとられず、日常授業の充実を図り、学校での学習内容や児童の取組状況を保護者に月次学級通信やホームページなどを通して伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の様子をライブ配信などで保護者が見ることができれば学校の取組がより伝わるのではないかと。 ICTを活用した授業は手元の画面で見られるので、後ろの席でも見えにくい状況にならず適切な指導ができていた。 中高でもICTは積極的に利用されているので、特に6年生は中学校での利用を踏まえて積極的に使用した方がよい。 タブレット学習は文字を書かないので思考力や読解力が低下しないか懸念される。筆圧や書き順なども大事なので、少なくとも低学年では紙に書いて身に付けさせてほしい。 持ち帰りタブレットの操作に不安な保護者を対象とした講習会を計画するとよいのではないかと。 図書室利用の児童が増えていることは良いことである。語彙力が増え、読解力も発達することで学力向上にもつながるため、進んで本を読んでもほしい。 		
	② 職員の得意分野や研究実践を活かした研修による授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善に必要な指導技能の共有研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 西都市教育委員会や県教育委員会が主催する各種研修会に多くの職員が参加し、様々な研究実践の情報を得ることができた。 ICTを効果的に活用した授業実践に取り組み職員が増え、ICT機器に関して得意な職員が他の職員に伝え広がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善のための各種研修会がzoomで開催されることが増え、出席しやすくなり参加できるため、時間割の変更や調整を行い、職員の参加を促していく。 タブレットの持ち帰り学習が更に促進されることが予想されるため、発達段階に応じた効果的な活用の仕方を研究していく。 			
	③ 家庭学習の習慣化の充実と読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の手引き」をもとにして、各学年で個々の児童の実態に応じて、家庭と連携しながら家庭学習の定着を図る。 「学校図書館の利用について」に基づいて利用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が家庭学習の充実のために進んで声をかけていると回答した割合が高くなった。(92%→93%) 85%の児童が図書室や図書館の本を借りるなど読書をしていると回答しており、「読書の日」以外でも多くの児童が読書に親しんでいることが窺える。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭でのタブレット学習に関してトラブルが増えるため、保護者にも分かるような使用手順やトラブルへの対処法などをまとめ、いつでも確認できるようにホームページに常に掲載しておく。 			
(2) 積極的な生徒指導の充実と豊かな心の育成	① スクールワイドPBS手法を活用した児童への行動支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> スクールワイドPBSに基づいた教育実践を通して、児童の望ましい行動の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の92%があたりまえ四か条ができていると回答しており、年間を通して全校で実践したスクールワイドPBSが児童の意識変化に少なからず影響していると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はスクールワイドPBSであたりまえ四か条の一つである「あいさつ」に特化した取組を行い成果が見られた。次年度も児童が成長や変化を実感できるように目標を絞って取り組むことを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつは人生の基本であるので、しっかり身に付けさせて欲しい。継続指導を望んでいる。 いじめなどに関して、子ども達としっかり向き合っていることが分かり、改めて安心した。先生達には引き続き見守ってほしい。 風水害や地震・火災の防災講話や訓練について、防災士ネットワーク西部支部や妻北地域づくり協議会が協力可能なため、相談してはどうか。 学校帰りは開放感があるので、交通ルールを守るという意識が薄まることは仕方ないが、学校での継続した指導をお願いしたい。 全国的に学校に爆破予告や殺人予告が送られる事案が起きており、西部も例外ではないため、防犯の合い言葉である、「いかのあすし」をしっかりと覚えさせることが大事である。 不審者の情報もあるので、警察や補導員と連携して見回りを地域で行っていく必要がある。マチコミで情報を流してほしい。 		
	② 道徳教育・教育相談等の充実による人権意識と自己肯定感の向上	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に教育相談を実施し、実態把握の参考に。必要に応じて会議を開き、全職員で対応する。 いじめ・不登校対策会議を計画的に設定し、全職員の共通理解を図るために報告を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達の良いところを見つけていると回答した児童が97%であり、昨年度の95%より増えている。 83%の保護者が子供はいじめや友達間のトラブルがなく、楽しく生活を送っていると回答しているが、「判断できない、分からない」という保護者も10%おり、保護者とのコミュニケーションが十分でない家庭があると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめや不登校を未然に防ぐため、心のアンケートをゆめや登校よう教育相談の時間を確保する。 毎週1回行っている職員の終礼において、全職員が共通理解を図る必要がある児童の情報を伝え合い、対応の仕方が職員によって異なるないようにする。 			
	③ 危機管理体制の充実と安全教育の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に避難する防災意識の高揚を図る。 放送や学級での指導を通して、登下校や交通の安全についての指導を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で日程変更を余儀なくされたが、風水害と火災の防災訓練を予定していた回数実施でき、避難経路を確認しながら避難の練習をすることができた。 94%の児童が交通の決まりをまもっていると回答しているが、下校時に道に広がったり、児童同士がぶつかるなどして指導することが多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 全児童が自分の教室にいる時間を設定し、学級担任が避難誘導しているが、自分で考えて行動する力を育てる観点から、次年度は専科の授業時や昼休み時間など時間設定を見直したい。 下校時の交通ルールについては、帰りの会や登校班会で継続して指導する。 			
(3) 健康教育の推進と体力の向上	① 保健・衛生指導の充実と家庭との連携による健康的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策など保健衛生意識の高揚を図る。 児童の健康状態の適切な把握と早期対応の充実を図る。 性に関する指導など健康教育の計画的実施を図る。 「弁当の日」を設定するなど食育指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策で重要なうがい、手洗い、室内の換気は定着している。休み時間の換気や活動後の手洗いは職員が指導しなくても自発的に行う児童が多く見られる。 授業中のマスク着用は指導が徹底できているが、昼休み時間の外遊びにおけるマスク着用ルールを時期によって変更しているため、徹底できなかった。 早寝・早起き・朝ごはんや食後の歯磨きがいっつもできていると回答した児童の割合が昨年度より減っている。(93%→91%) 	<ul style="list-style-type: none"> 3学期には新型コロナウイルス感染症だけでなく、インフルエンザに罹った児童も多かったため、コロナウイルス感染者数だけにとらわれることなく感染対策を徹底していく。 保健室に来る児童の話や朝ごはんを食べずに登校したり、前日の夜遅くまで起きていたということも多く、「ほけんだより」の内容をマチコミでも流すなど家庭への呼びかけを充実していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝食は体温を上げたり、脳にエネルギーを補給したり、ホルモンなどの分泌を促す役割があり、心と身体を整えるものであることをもっと教えることが大事ではないかと。 コロナやインフルエンザ等に関係なく、手洗いやうがいや身に付くことは子供達にとって良いことなので、コロナが落ち着いた後も続けてほしい。 夜遅くまで子供達が起きていると聞いている。十分な睡眠は必須なため、学校での早く就寝するよう指導が必要である。 運動会は、PTA役員の準備などの負担が少ないので午前中開催で問題はないが、保護者としては別の競技も見たいという気持ちがあると思うので、アンケートを実施して同意をもらうことが大切である。 コロナや寒さで外で運動する機会が減っており、体力的な面での能力の低下が心配であるため、子供達の現状を保護者に情報提供することや、これからのような対応をしていくかについて考える必要がある。 		
	② 体育指導の充実と運動の日常化推進による体力向上	<ul style="list-style-type: none"> 体育科の教材・教具の効果的な活用を図り体力向上を目指す。 運動会や縄跳び月間など体育的行事の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染症の拡大時には昼休み時間をカットしたり、他学年児童との接触が増える外遊びを禁止する対応を行ったことで、運動の日常化や体力向上が難しい時期が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動会は3年連続で午前中開催としたが、リーダー的役割である5、6年生からは満足感を得たという言葉が多く聞かれた。職員アンケートでは91%が今後も午前中開催がよいと回答している。今後、保護者にもアンケート調査を行う予定である。 施設の修繕については、必要に応じて市教育委員会に依頼をお願いしていく。 			
	③ 児童が安全に活動できる施設環境の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> 校内施設の定期的な安全点検を確実に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内施設の安全点検を確実にに行い、その都度、修繕や補強などを行い、児童のけがにつながるようなことはなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設関係者や保護者が必要に応じて市教育委員会に依頼をお願いしていく。 			
(4) 個別を生かす特別支援教育の充実	① 個別の指導計画・教育支援計画に基づいた児童一人一人のニーズに応じた指導・支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態を把握し、諸機関との連携を図り、適切な指導の工夫に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校は特別の配慮や支援が必要な児童への教育に十分に取組んでいると回答した保護者は70%にとどまっており、26%は判断できない、分からないと答えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別な配慮や支援が必要な児童に対して、適切な支援ができるよう、外部の専門家による職員研修を行うなど、特別支援学級の担任だけでなく、職員全員が児童の支援に必要な知識と技能を習得できる機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級にあまり関わらない保護者が、学校でどのような配慮をしているのかわかりづらいと思われるので、情報提供をしっかりと行っていた方がよい。 児童一人一人の障がいの状態を把握するのは大変だと思うが、特性にあった適切な指導と継続的な支援をお願いしたい。 発達障がいなどについて、児童や保護者向けの講演会などを開催すると理解が深まるのではないかと。 		
	② 保護者・学級担任及び諸機関との連携の強化による児童支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 地域、保護者、学級担任等との連携を図り、校内支援体制の整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な児童の保護者との面談は学級担任だけでなく、管理職や特別支援コーディネーターも同席し、学校全体で支援できるように協議を重ねている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が学級担任との面談を希望した際は、できるだけ早く対応し、必要に応じて管理職や特別支援コーディネーターが同席する。 			
	③ 児童や保護者等への特別支援教育に関する啓発推進	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級、通級指導教室と通常学級との連携を図りながら交流学習を進め、豊かな情操教育に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 通常学級の児童が通級指導教室に行く際には、学級担任が通級指導教室指導者と連携を密に図り、適切な声かけを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA総会など保護者が集まる機会に特別支援教育に関する理解を深めるための情報提供を行う。 			